

## 2014年アジアジュニア選手権レポート (3)

9月4日

今日は雨の予報でしたが、朝から太陽ガラギラの真夏モードで気温が上がっています。今日からレースが始まります。朝、起きてロビーに行くと、いきなり時間変更のアナウンス。

**JW1x 10:15 (日本時間11:15) 高島選手 (米子東高校)**

**Heat 2, 1,2->FA**

**KAZ, VIE, SRI, JPN, CHN**

日本はJW1xの高島選手 (米子東高校) のレースからです。

高島選手はスタートよく飛び出します。5レーンの中国が気になりつつも、スタート地点に付けると、中国が現れず4艇でスタート。スタートダッシュで飛び出しそのままジワジワと差を広げて前半1000mで大きく水をあけて通過。2レーンのベトナムの選手は世界Jrにも出場していた選手であり、マークはしていたものの、大きくリードしたまま後半へ。大差もあり落ち着いてワンストロークで艇を進める感じてレースを展開。1500m辺りで疲れが出て来たのか、一本ごとの押し切りに甘さが出て来たものの、正確なストロークを取り戻し、さらに他のクルーを引き離してゴールしました。タイムはなかなか張り出されず、会場をさがしてもなく、そのまま昼食をとるために宿舎に戻って来ました。



左：ゴールして喜ぶ高島選手 (米子東高校)  
上：古田コーチとミーティングをする高島選手 (米子東高校)

日本チームは幸先良く最初のレースで1位でゴールしました。しかし、この後、このレースは「再レース」となりました。カザフスタンからスタートが正常に行われなかったとクレームがついたそうです。日本チームも抗議いたしましたが、結果は変わらず、「再レース」です。

## JM2x 10:45 (日本時間11:45) 古田選手 (米子工業高校)、武田選手 (美方高校)

Heat 2, 1->FA

IRQ, MAS, IRN, JPN, KOR



左：レースへ向け蹴りだすJM2x (古田選手 (米子工業高校)、武田選手 (美方高校) )  
上：JM2xのスタート地点の様子

スタートでやや日本がリード。しかし、1レーンのイラン、3レーンのイランが僅かな差でついてきます。日本は落ち着いて、スタートダッシュからのコンスタントの繋がりも良く、スピードに乗っています。

徐々に1レーンのイラクが落ち始めてくるものの、3レーンのイランは半艇身のままついてきます。5レーンの韓国はスタートダッシュからバタつき、出遅れその後も伸びてきません。

1000m手前まで3レーンイランがついてきていましたが、後半に入るとスピードが載り切らず、ワンストロークごとに差を広げる展開になってきました。1500m地点では完全に水をあけて通過。しかし、この辺りで一本の甘さが出始めて、ストロークの短さが出始めた。皆さんの応援もあり、正確なストロークで漕ぎ直し、ラストは2位に13秒差をつけての余裕でゴールとなりました。

ここでも課題は1500m付近で漕ぎのゆるさが出てきたことです。終始、水中への働きかけは意識をさせたいと思います。Final Aへの進出を決めました。

**JM1x 14:30 (日本時間15:30) 高田選手 (敦賀工業高校)**  
**Heat 1, 1,2->FA**  
**UZB, PAK, SIN, JPN, TPE**

午後に入り、最初のレースはJM1xです。JM2xに続きFinal A進出を目指します。



左：レースへ向け蹴り出すJM1x高田選手 (敦賀工業高校)  
上：スタート直後のJM1x高田選手 (敦賀工業高校)

レースは、スタート直後より半艇身リード。そのまま徐々にリードを広げて、ゆとりあるリズムで500mを通過。さらに少しづつリードを広げながら1000mを通過。

後半に入り、1レーンのウズベキスタンが徐々に差を縮めてきました。しかし、ラスト500mは高田選手 (敦賀工業高校) も一本ごとの正確な漕ぎを取り戻し、2位に8秒以上の差をつけ1位でゴール。Final A進出を決めました。

やはり、後半に入り少しバタついた辺りが改善点かと思われます。この辺りで修正しながら、金メダルを目指します。

**JW2x 15:00 (日本時間16:00)**

**小原選手 (筑波大学)、瀧本選手 (館林女子高校)**

**Heat 1, 1,2->FA**

**HKG, IND, IRI, KAZ, JPN**

続いてJW2xです。



左：船台で最後のミーティングをするJW2x小原選手 (筑波大学)、瀧本選手 (館林女子高校)  
右上：レースへ向け蹴り出すJW2x小原選手 (筑波大学)、瀧本選手 (館林女子高校)  
右下：JW2xのレースの様子

スタート直後から、半艇身リード。しかし、1レーンの香港、3レーンのイラン、4レーンのカザフスタンがしぶとくついてくる展開。日本は焦らず一本ごとに落ち着いてのレース展開。

1000m付近で、他のクルーが徐々に落ちていく中、日本は一定のリズムでのレース。差を広げ始めラスト500mからは独走状態になり、2位に20秒近い大差をつけて1位でゴール。Final A 進出を決めました。

**JW1x 16:15 (日本時間17:15) 高島選手 (米子東高校) (再レース)**  
**Heat 2, 1,2->FA**  
**KAZ, VIE, SRI, JPN, CHN**

さて、高島選手 (米子東高校) の再レースです。

1レース目では、スタートの赤旗の合図の歳、スターターがGoの声を出し遅れた模様。そのため、各国選手が戸惑って公平なスタートではなかったとして、再レースとなりました。

高島選手 (米子東高校) はしっかりと気持ちを切り替えてのレースに臨みました。落ち着いて、無理に出ることもなくスタート。それでも、半艇身ほどリード。1レーンのカザフスタンが前半はついてくるものの、後半からは徐々に離れ、リードを広げてゆとりのあるゴール。

前半、コースが荒れていることもあり、リズムに乗りきれないところもありましたが、後半は一本の伸びも感じられ、良いリズムでゴールしました。Final Aへ進みます。

初日、日本チームは全クルートップでゴールし、明後日 (9月5日) に開催予定のFinal Aへ進みました。



コース脇には伴走可能な道路があります。中学生ボランティアが1000m~2000mの間に、このように列をなして立っています。レースが始まると笛の合図で一斉にロープが張られます。